

# 夢中dent

## Stories

vol.2  
2024

人々の夢中を応援するクラシエが出会った、夢中 dent たち。

ときに挫折し、ときに苦悩し、それでも夢中になってつき進む彼らの物語を冊子にしました。

ぬい服に夢中  
高宮凜

ぬい服に夢中  
高宮凜

子ども  
英会話に夢中  
小出将大





何かに夢中な若者「夢中dent」。

彼らの夢中に対する想いや

夢中の魅力を取材し、冊子にしました。

なかなか夢中になれないとき、

夢中な気持ちを忘れてしまったとき、

もう一度、夢中になってみたいとき。

読んでみて欲しい「夢中dent Stories」です。



## 03 高宮 凜

想いを形にするぬい服作りで、みんなの推し活をハッピーに。

## 07 小出 将大

遊んで、学んで、地元の子どもたちに英語を好きになってほしい。

## 11 Another Story ムービー撮影の舞台裏 大久保 楽

## 12 編集後記／企業情報

# 想いを形にするぬい服作りで、みんなの推し活をハッピーに。

## 高宮凜さん

たかみや  
りん



### きっかけは友達の 何気ない呟き。

「大学2年生になってすぐ出会った友達と、アイドルをプロデュースする『あんさんぶるスターズ!!』というスマホゲームがお互い大好きなことですごく仲良くなりました。ある日その子が、『UFOキャッチャーで推しアイドルのぬいぐるみを取ってきたから、ゲームで登場しているお洋服を着せてみたいんだよね』と話してくれて。私はもともと手芸が好きだったので、じゃあ作ってみようかな?と」。

最初はぬい服(ぬいぐるみに着せるお洋服)の作り方もよく分からず、見よう見まねの作業で失敗の連続だったと話す高宮さん。そんなとき、友達から預かったぬいぐるみを見て気付くことがあったそうです。「ぬいぐるみの目にキラキラなお星さまが散りばめられていたり、ほっぺたにチークが塗ってあったりしたんです。友達がそのぬいぐるみを本当に大事にしている気持ちが伝わってきました。だから私もその子のことを同じように大切にして、ぴったりなぬい

服を着せてあげたいと思ったんです」。

最高の一着を作り上げるため、試行錯誤を重ね、ついに完成したぬい服。友達へプレゼントしたときのことは今でも思い出に残っていると話します。

「完成したぬい服を手渡したとき、可愛すぎる!大事にする!!ってものすごく喜んでくれました。その友達はもともと、ぬいぐるみと一緒に出かけて写真を撮って楽しむ“ぬい活”をしていたんですけど、プレゼントした服を着せてお出かけしている様子をたくさん写真で送ってくれました。その様子を見て、自分で自分の気に入ったものを作るのも楽しいけど、友達の“ぬい活”をもっと楽しくしたり、驚かせたりすることが何よりも幸せだなって気付いたんです」。

### 推しのぬいぐるみは お守りのようなもの。

小さい頃から推しのキャラクターがいて、ぬいぐるみを可愛がっていたという高宮さん。そもそも人生において推しとはどんな存在なのか聞いてみま

した。「推しがいるから頑張れる。勇気や元気をもらえる。本当にそんな感じです。たとえば『あんさんぶるスターズ!!』の推しの1人に、自身が所属するアイドルグループの衣装作りを担当しているアイドルがいるんですけど。その子が細部までこだわって衣装作りをしているところを見たり、グループの世界観を衣装で再現しているのを見ると、自分もそんな素敵なぬい服が作りたいって思えるんです」。

ぬいぐるみは基本的にどこでも一緒に連れていくそう。「私にとってはお守りみたいなもの。持っているだけでパワーをもらえるというか。バイト中にしんどいなあと思うことがあっても、カバンの中で見守ってくれていると思うと踏ん張れます。家で勉強していく心が折れそうになったときも、目の前にぬいぐるみを置いてみると不思議ともうちょっとだけ頑張れたりして。今では私の人生と切っても切り離せない、大切な存在です」。



## 素材に、細部に、 とことんこだわる。

友達に喜んでもらえた経験を機に、ぬい服作りに一気に夢中になった高宮さん。溢れ出る推しへの想いを形にするためのアイデアは尽きません。「ぬい服を作るときは、まずお洋服のコーディネートやデザインを考えます。こんなお洋服を着てたら可愛いだろうな、こんなお洋服を着せて一緒に遊びに行きたいなって考えていると次から次へとアイデアが浮かんでくるので、その気持ちをデザインに落とし込んでいます」。

デザインが固まったら次は素材探し。これが本当に大変なんだそう。「ぬいぐるみ用の小さいパーツや素材ってなかなか売っていなくて。だから手芸店に通ったり、街を歩きながら使えそうな素材がないか四六時中探したりしています。意外なものがパーツとして使えたりするんです。たとえば最近は、ネイルパーツのカメオを使ってぬい服を作りました。ぬいぐるみのサイズに合うカメオをずっと探していたので、見つけたときはこれだ!って嬉しかったですね。理想のぬい服を作り上げるためにも、素材探しは妥協しないようにしています」。

最後はぬい服として作り込んでいく作業。ここにも高宮さんのこだわりを詰め込みます。「見つけた素材を切ったり、貼ったり、塗ったり、描いたり、組み合わせたり…。理想ピッタリの素材はなかなかないので、ないものは自分で作る!の精神で細かい部分まで作り上げます。たとえば、刺繡が入っているお洋服を作りたいときがあって。どうしても刺繡素材が見つからなかったので、乾くと立体的な刺繡風の見た目になるステッチカラーという絵具を使って、自分で刺繡を描いたりしました。そんなふうにこだわって作るので大変ではあるんですけど、これは難しいかな、って思ったものを工夫して作れたときはすごく嬉しいですね」。

## ぬい服から 生まれる思い出。

高宮さんの妹も大の『あんさんぶるスターズ!!』好き。あるとき、高宮さんと妹の2人で舞台を見に行くことに。そこであることをひらめきます。「SNSに舞台関連の写真が投稿されるたび、衣装のこの部分が好き!など、一生懸命教えてくれる妹がとても可愛くて(笑)。そんなに大好きな衣装なら、作ってあげたらどんな顔をしてくれるのかなと思って、内緒でぬい服を作ることにしました」。しかし、制作を決心したのは舞台の3日前。急いで布やパーツをかき集め、妹の喜ぶ顔が見たい一心で舞台の衣装画像とにらめっこしながら作ったそうです。



「完成したぬい服を普通にプレゼントするのはおもしろくないので、寝起きで頭が回っていない妹を驚かせるべく、リビングの机にぬいぐるみを置いておきました。サプライズは大成功! 起床した妹がリビングに入ってきて存在に気付いたとき、普段の妹からは想像がつかない様子で驚いてくれて。めったに投稿しないインスタグラムにも写真を載せてくれたり、舞台観劇中もずっとお膝の上に座らせていたり。この顔がまた見られるなら、何回だって妹のためにぬい服を作りたいなあと思いました。」

他にも、ぬい服は高宮さんにたくさんの縁を繋いでくれています。「インスタグラムに制作したぬい服の写真を投稿したときのことです。ずっと連絡をとっていなかった高校の友達から突然連絡がきて」。やりとりをするうちに、その友達も『あんさんぶるスターズ!!』が大好きで、しかもぬい服を作っていることが判明。「次に会うときは一緒にアフタヌーンティーに行って、お気に入りのぬいぐるみを撮影して楽しむぬい撮りデートをしようと計画を立てています。そのときまでには、その子に贈るぬい服を完成させたいなと考えています。ぬい服が再度結んでくれた嬉しきるご縁に感謝でいっぱいです」。

## 尽きることのない

## ぬい服への愛。

「私にとってのぬい服は、自分や友達の推しへの想いを形にする大切な手段。でもまだまだ技術や知識不足なところもあるので、最高のぬい服を作れるようにいろいろなことに挑戦してみたいです。技術的なところで言うと、和装などに使うつまみ細工や、革細工。あとはレジンや刺繡、レース編みにも手を出してみたい。あとは、お洋服についても勉強したいですね。アンティーク調のぬい服が好きなので、展示会や美術館に行って、本物のお洋服やドレスのデザインを研究したいなと思っています。」

高宮さんがぬい服作りを始めて約1年。ぬい服への想いは尽きることなく、むしろますます強まっています。

「やっぱり、喜んでもらったり驚かせることが一番のモチベーション。ぬいぐるみって世の中にたくさんあると思うんですけど、ぬい服を着せてあげることで持ち主にとって世界に1つだけの特別なものになる。そうすると可愛さや愛着も倍増する気がするんです。自分の作ったぬい服で、みんなの推し活がもっとハッピーになつたらこんなに嬉しいことはないですね。」

じつは取材中、高宮さんから取材スタッフへのサプライズもありました。取材1回目の合間の雑談でスタッフが持っているぬいぐるみの話が出たのですが、なんと取材2回目にそのぬいぐるみのぬい服を作ってきてプレゼントしてくれたのです。スタッフも大喜びで、みんなを喜ばせたいという高宮さんの想いを肌で感じた思い出に残る出来事でした。自身の夢中を通して、周りの人の夢中も輝かせている高宮さん。これからも推しへの愛を原動力に、創作の道は続いていきます。



### 高宮 凜

ぬい服(ぬいぐるみに着せるお洋服)がとにかく大好き。この世にないものは自分が作って生み出す!をモットーに、溢れ出る想いを形にするぬい服作りに夢中。ぬい服によって、みんなの推し活を楽しくすることが目標。



## ぬい服作品展

高宮さんがこれまで作ってきた、  
愛とこだわりがたくさん詰まったぬい服たち。  
その一部を、お気に入りポイントとともに教えてもらいました!

私の気に入りの  
お洋服とおそろいにした  
くて、リンクしたコーディ  
ネートで作りました。偶然見  
つけたアンティークなカメオ  
(本来はネイルパーツ)が  
ポイント。

彼のテーマカラーで  
あるピンク色を取り入れて  
制作。2種の生地を組み合わ  
せて表現した花柄レースが気に  
入っています。  
(左のぬい服とおそろいです!)



「じつは  
ネイル用パーツのカメ



こちらも妹の舞台観  
劇のために制作。  
アシンメトリーになっている  
ジャケットが難しかった…。  
うさぎがモチーフの衣装なので、  
じつは後ろにしっぽもつけて  
います。



妹の舞台観劇に合わせ  
て作りました。元の衣装  
に寄せるために、肌色の布を  
差し込み、胸元のVネック襟を  
再現しています。特徴的な  
大きな帽子は厚紙で作っ  
ています。

「バ  
ジ  
ク  
イ  
タ  
イ  
ル  
に  
ウ  
サ  
ギ  
の  
し  
っ  
ぽ



# 遊んで、学んで、 地元の子どもたちに 英語を好きになってほしい。

## 小出 将大さん

こいで  
まさひろ



### 英語を好きになる 入り口を作りたい。

幼少期の5年間をアメリカで過ごし、大学ではマーケティングを学ぶためにカリフォルニア留学を経験した小出さん。留学を通して、日本の英語教育への課題意識が芽生えたと言います。「(小出さん) 小学4年生で帰国してからは地元の学校に通っていたんですが、当時の英語の授業に疑問を感じていた部分もあって。たとえば机に向かってノートを取るだけでアウトプットする機会がなかったりして、子どもながらに退屈を感じることもありました。文法や単語を覚えることも、もちろん大切。でもそこから始めてしまうと英語がつまらないものだったり、難しいものに感じてしまう気がしたんです」。

子どもたちが英語に最初に触れる機会。その第一歩で、今後の英語との関わり方が変わってくるのではないかと話します。「(小出さん) じゃあ僕に何ができるだろうと考えたとき、アメリカで英語や異文化コミュニケーションの楽しさを体験したからこそ、

子どもたちに英語を好きになってもらえるような機会作りができるんじゃないかと気付きました。帰国後、地元出身のメンバーに声をかけてみて。失敗してもいいからとりあえずやってみることが大事だよねということで、2022年3月に多治見市で『CFE (Children Future English)』を設立しました」。

『CFE』はボランティアではなく、営利団体。そこには、たくさんの人に英語の楽しさを届けたいという想いが込められていました。「(小出さん) ちゃんと利益が出て活動を持続させていくためにビジネスという形を選びました。でもあくまで目的は、たくさんの子どもたちに英語を好きになる機会を提供すること。だから金額面でもハードルを下げられるように、安い金額で始めてみたんです。それで信頼を獲得していくって、ちゃんと収益を出せるようになれば、いずれは多治見以外にもこの活動を広げていくことができるかなと」。

~今回インタビューさせていただいた『CFE』のみなさん~  
左から各務朱音さん、後藤愛実さん、伊藤祐作さん、小出将大さん、  
小田中悠真さん、若尾侑功さん、(リモート参加) Josue Martinezさん



## メンバーも、子どもも、 ともに学び成長する。

それが得意分野を持っている『CFE』のメンバーたち。英語を好きになる入り口を作るという目標に向かってみんなで試行錯誤する日々の中では、子どもたちだけでなくメンバーも成長しています。

「(若尾さん)中学生のとき、楽しみながら自主的に英語を勉強したら、成績がぐんぐん伸びたんです。だから子どもたちにも英語を楽しみながら学んでほしい。春に、英語を話しながらお出かけする遠足イベントを実施しました。個人的には失敗してしまったところもあるんですけど、同じように失敗しながらも英語を楽しんでいる子どもの姿を見て、失敗も大事な経験だって思い直すきっかけになりました」。

「(伊藤さん)僕は小学校の先生を目指しています。小さい頃は英語は正直苦手でしたが、子どもの教育に関わりたくて『CFE』へ参加しました。楽しみながら学んでもらうにはどうしたら良いか、という教育視点ですごく成長させてもらっています。子どもは正直なので、つまんないと思っているのがすぐ分かる。だから興味を持ってもらうために質問を投げかけたり、イラストボードを作ってみたり、話し方を変えてみたり。工夫した分だけ反応してくれるのが嬉しくて、そのたびに夢にも近づいていると感じます」。

「(後藤さん)子どもの中には、お母さんから離れられなくなってしまったり、黙り込んでしまう子もいて。普段は保育士をしているのですが、どうしたら子どもと気持ちを通わせられるのか改めて考えることが増えました。自分が関わるうちに輪に入っていたり、英語を少しづつ話してくれるようになる子どもたちの姿からいろいろ学ばせてもらっています」。

「(Josueさん)僕はアメリカ在住なので基本はオンライン授業担当です。以前、英語に全然興味がなさそうな子を受け持ったことがあって。テキストブックをやめて、その子が好きな電車の話をしてみたんです。するとリアクションが一気に変わって食いついてくれるようになった。こういうときに時差を乗り越えられるくらいの喜びを感じますね」。



## ビジネスと教育。 突き当たるそれぞの壁。



活動を始めて約1年半。少しづつ活動を広げていく中では、営利団体だからこそ壁もあったと言います。「(小出さん)広告費を抑えるためにポスター配りをしていたときのことです。多治見市内をいろいろ回っていたんですが、『CFE』ではレッスン料やイベント参加費が必要という理由でポスター貼りを受け入れてもらえないことも多くて。営利団体といつてもお金を稼ぐことが目的ではないのですが、そこを理解してもらえないことが重なったときは苦しかったですね。インスタグラムでも広報活動をしていますが、認知度不足は大きな課題です」。活動を全て自分たちで作り上げているからこそ苦労もあるそう。「(小出さん)子どもに英語を教える上でも課題だけです。たとえば、授業中の英語と日本語の割合。英語ばかり話していても伝わらないし、日本語を話すすぎても学びにならない。そこの塩梅は、授業を重ねながら手探りで模索しています。最近は子どもたちの様子を見ながら、英語8割、日本語2割を意識しています。英語の意味が分からなくても、自分の行動と一緒に伝えることで理解してもらえることが増えてきました」。

## 世界へ、子どもへ、 地元の魅力を届けていく。



地元出身の学生を中心とした国内外の仲間たちと一緒に、地元である多治見で子どもたちに英語を教えている理由。そこには、地元への温かい想いがありました。

「(各務さん)『CFE』の活動は、地元への恩返しでもあると思っています。10年、20年先を見据えたとき、自分の地元のことを英語で伝えてくれる子が増えれば、地域の発展にもつながると思うので。英語を使って地元の特産品である美濃焼をプレゼンテーションしたり、有名な観光スポットを紹介したり、そういった企画も今後挑戦していきたいです。直近では多治見で子どもたちを集めて行うスピーチコンテストを考えています。プレゼンスキルのニーズも高まっているので、そこを切り口に活動をどんどん拡げていきたいなと」。

「(小田中さん)子どもたちに地元をもっと好きになってほしいという想いがあります。県外の大学に通い始めてからふと思ったんですけど、岐阜県の川ってすごい綺麗なんですよ。教員採用試験の対策で岐阜県の魅力を調べていくうちにどんどん岐阜県が好きになって。僕は大人になってから気が付きましたが、子どもたちには『CFE』の活動を通して、地元の良さはこんなにいっぱいあるんだよって今から伝えたいです」。

## 未来をつくる 子ども英会話。

『CFE』が子どもたちに英語を好きになってもらう

場として存在することはもちろん、今後は大学生の就職活動をサポートする場としても機能させていきたいと話します。「(小出さん)僕は今大学4年生なんですけど、就活で学生時代に力を入れたことを聞かれたけど何も言うことがなくて困ったという人が周りに多くて。その人たちがもし『CFE』で活動していて、学生時代に自分たちでイベントを開催したことや、子どもたちを何十人と集めたことを話せたらすぐ武器になると思ったんです。それだけじゃなくて、かけがえのない仲間が見つかる場所でもあると思うので、これからも大学生が運営していくところにはこだわっていきたいですね」。

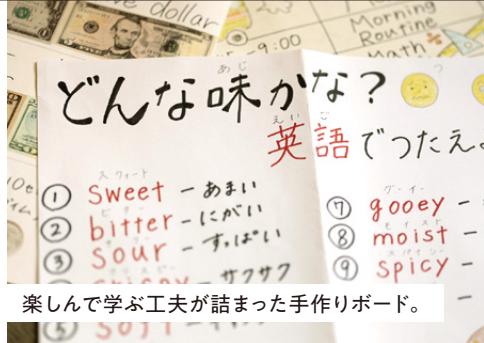
小出さんは、来年には社会人として東京で働くことが決まっているそう。地元を離れるとはいえ、小出さんの夢中はこれからも動き続けます。「(小出さん)僕が生きられるのって長くてもあと80年。残りの人生でやれることを考えたときに、やっぱり生まれ育った多治見に何か残したいと思いました。子ども英会話にはその可能性を感じていて。たとえば今通ってくれている子どもが20歳になって、英語を使った新しいビジネスを生み出してくれたらもっと多治見が盛り上がる。子どもたちが大人になって、海外との取引で多治見の特産物などを紹介してくれたら、多治見の文化が世界に広がっていく。そんな未来を想像するとワクワクするんです」。

「(小出さん)中期のプランとしては、自分が30歳になるまでに多治見に『CFE』の店舗を作ることを目標にしています。子どもに英語と多治見を好きになってもらえる日本一のサービスを目指して、これからも活動を続けていきます」。



### 小出将大

地元多治見の大学生たちと子ども英会話『CFE』を設立。子どもや親世代の英語学習へのハードルを下げるため、異文化コミュニケーションを大切に英会話イベントを行なっている。地域に根ざした活動によって、地元の発展を目指す。



楽しんで学ぶ工夫が詰まった手作りボード。



積極的に英語で質問する子どもたち。



子どもたちからのお手紙が宝物。



海外在住のJosueさんとオンライン会議。

## 『CFE』LECTURE!

# アメリカの文化に触れてみよう!

## アメリカの時間割を見てみよう!



アメリカの小学校の時間割は、日本と違うところがたくさん。たとえば朝の「Morning Routine(朝の日課)」。この時間では毎朝みんなで、国家への忠誠を誓う「Pledge of Allegiance(忠誠の誓い)」を暗唱します。僕もアメリカの小学校に通っていたときは毎朝唱えていました!

## アメリカの通貨を見てみよう!



アメリカのお金の単位は「ドル」と「セント」。その中でも「セント(硬貨)」には、それぞれ愛称があるんです。1セントは“ペニー”、5セントは“ニッケル”、10セントは“ダイム”、25セントは“クオーター”。アメリカに住んでいる人は愛称で呼ぶことが多いんです。日本にはない文化でちょっとおもしろいですよね。

『CFE』の活動はこちらから→ [ホームページ](#)



Instagram



## ムービー撮影の舞台裏

今回は、夢中dentムービーのセカンドカメラマンとして映像に夢中な学生 大久保楽さんに参加いただきました。大久保さんの夢中な想い、そして夢中dentプロジェクトで見つけた新しい進路についてお聞きしました。



作りたいのは、  
空気感まで伝わる映像。

もともと好奇心旺盛で、ワクワクしたことに対する行動するタイプだったと言う大久保さん。絵や音楽などいろいろな表現活動を経て、たどり着いたのが映像でした。「これまでの表現活動では、作品に込めた想いをなかなか伝えることができなくともどかしい思いをしていました。でも映像で初めて、伝えたいことを伝えることができたんです。それがすごく嬉しくて。どんどん映像に夢中になっていきました」。



映像を作るときのモットーとして「空気感まで伝えたい」と語る大久保さん。今回のムービー撮影でもそこを意識してカメラを回したそうです。「たくさんの大人に囲まれて密着取材を受けるなんて初めは誰だって緊張するはず。だからこそ、緊張したり戸惑っている姿も収めることを意識しました。キレイなところだけを切り取るのではなくて、夢中dentたちの飾らない姿を通してプロジェクトの楽しさを伝えられるようなムービーを作りたかったんです」。

大久保さんは現在大学3年生。夢中dentプロジェクトをきっかけに、就職活動でチャレンジしてみたい



ことができたそうです。「今まで絵を描いたり、音楽を作ったり、畠仕事をしたり、介護職で働いたり、バイク用品のデザインを作ったり…映像制作以外にもいろんな経験をしてきました。今回プロの方と一緒に仕事をしてみて気が付いたのは、誰かの課題解決のために僕のこの経験が活かせるんじゃないかということ。今回あれば“夢中dentの想いを伝える”というお題に対して、映像を作ることはもちろん、どんなコンセプトで伝えるか、それをどんな構成にするか、デザインの魅せ方や音楽をどうするか、など今までの経験を活かして考えることが楽しかった。就活も始まつたので、僕にしかできない提案や発想で課題解決できるような仕事にチャレンジしてみたいと思っています」。



### 大久保 樂

絵、音楽、バイク、畠、デザインなど幅広く経験。大学からは映像制作を始める。「空気感まで伝えたい」をモットーに、自主制作映像などを日々作っている。

## 編集後記

夢中な若者を応援したいという想いから始まった「夢中dent」プロジェクト。第2期となる今回も素敵な「夢中dent」のみなさんにお会えました。

ぬい服作りを通して、みんなを喜ばせることに夢中な高宮さん。インタビュー中も本当に楽しそうに、きらきらした顔で夢中について話してくれたことが印象に残っています。彼女が心の底から夢中を楽しんでいるからこそ、周りの人にも笑顔が伝搬していくのだろうなと実感しました。

地元多治見で子ども英会話に夢中な小出さんと『CFE』のみなさん。思わず話に聞き入ってしまうほど、子どもたちに英語や多治見を好きになってほしいと

いう目標への熱量を感じました。英会話イベントの取材で印象的だったのが、先生やお友達と英語で楽しそうに話している子どもたちの姿。小出さんたちの活動は、子どもたちの夢中も育てていました。

さまざまな夢中を教えてくれた「夢中dent」たち。取材させていただいた私たちも、何かに夢中になったときのワクワクやどきどきを思い出せました。約5か月間の取材にお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

「夢中dent」プロジェクトは第3期生も募集予定。次はあなたの夢中に出会えることを楽しみにしています！

誰かの夢中な笑顔を見たい。



子どもたちの目がキラキラする。  
生き生きとした自分に生まれ変われる  
こころもからだも安らいで暮らせる。  
誰かを想って、つぎの新しいなにか、を生もう。

クラシエの商品をきっかけに、こころが晴れる。  
何かをはじめられる。つづけられる。  
暮らしへ、未来へ、たしかな希望がわいてくる。  
そんな、夢中になれる明日をつくる。

上記は私たちのスローガンです。クラシエは「人を想いつづける」を企業理念に、シャンプー・ボディソープといった日用品・化粧品事業、漢方薬を中心とした薬品事業、菓子・アイスなどの食品事業を展開しています。

これからも「人を想いつづける」中で、夢中なあなたを応援するために、第3期「夢中dent」を募集予定です！

※夢中dentとは、何かに夢中な16~25歳の若者のこと。実際に学校に在学しているかは問いません。



